

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																											
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																											
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																											
分野	認定課程名		認定学科名			専任士	高度専任士																										
工業	工科技術専門課程		一級自動車整備科			-	平成21年文部科学省認定																										
学科の目的	次世代自動車技術(自動運転・IoT・EVなど)に対応できる「自動車+電気/IT(Ai・IoT)/ものづくりのスキルを併せ持つ一級自動車整備士」、また「社会人基礎力や人間力、そしてデジタルリテラシーも兼ね備えた将来の整備技術コンサルタント」を産業界や地域と連携し、即戦力として活躍できる学生を育成することを目的とします。																																
認定年月日	平成26年3月31日																																
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																										
4年	昼間	4,108	936	128	0	0	3,044																										
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																											
100人		63人	0人	6人	8人	14人																											
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S:90点以上 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下不合格 P:単位認定																											
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月7日～9月9日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月19日～3月31日			卒業・進級条件		【進級要件】 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 【卒業要件】 ①卒業年度の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動		■課外活動の種類 各種見学会、インターン実習、インターンシップ発表会、卒業作品展示会、各種ボランティア活動、企業連携など感染予防対策を徹底の上実施																											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) いすゞ自動車、トヨタS&D西東京、日産プリンス山梨、スズキ自販南東京、ニボル・カーズ、いすゞ自動車首都圏  国内自動車メーカー、自動車販売店(国産・輸入・大型)			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級小型自動車整備士(筆記)</td> <td>②</td> <td>13人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>二級ガソリン自動車</td> <td>②</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車</td> <td>②</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>中古自動車査定士</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人基礎単位</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	一級小型自動車整備士(筆記)	②	13人	11人	二級ガソリン自動車	②	13人	13人	二級ジーゼル自動車	②	13人	13人	中古自動車査定士	③	9人	9人	損害保険募集人基礎単位	③	13人	13人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																														
一級小型自動車整備士(筆記)	②	13人	11人																														
二級ガソリン自動車	②	13人	13人																														
二級ジーゼル自動車	②	13人	13人																														
中古自動車査定士	③	9人	9人																														
損害保険募集人基礎単位	③	13人	13人																														
■就職指導内容 3年次10月より半年間、就職ガイダンス、企業研究等実施(自動車メーカーコンセプト研究会、自動車ディーラーコンセプト研究会)			■卒業生数 : 13 人 ■就職希望者数 : 13 人 ■就職者数 : 13 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %		①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																												
■その他  (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)			■自由記述欄 その他取得資格: 低圧電気取扱特別教育、ガス/アーク溶接、ビジネス能力検定(3.2級) 職業訓練指導員																														

<p>中途退学 の現状</p>	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 2%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者57名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者51名(令和4年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 意欲喪失</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。</p>
<p>経済的支援 制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 【片柳学園入学金免除制度】 学校法人片柳学園の設置する学校の卒業生の子女、兄弟姉妹および孫、または在校生の兄弟姉妹が入学する際に入学金を免除する制度</p> <p>【若きつくりびと奨学金制度】 社会に貢献する人材のさらなる育成を目的に、学が意欲があり優秀な学生や経済的理由で就学が困難な学生に対し、返済不要の奨学金を給付する制度 (成績優秀者特待生・課外活動優秀者特待生・資格特待生・就学支援奨学金・再進学特待生・留学生特待生)</p> <p>【再入学優遇制度】 日本工学院専門学校または日本工学院八王子専門学校の二年制学科以上の学科を卒業または卒業見込みの方が、本校の他学科への再入学を希望する際、入学選考料・入学金の免除、および審査により授業料等を減免する制度</p> <p>【留学生特別給付制度】 私費留学生の出願者全員を対象とし、入学選考試験の成績優秀者には進学支援として、入学金の一部または全額を免除する制度</p> <p>【ミュージシャン特待生】 ミュージックアーティスト科に特待生として出願し、試験に合格された方は、入学費用のうち入学金を免除する制度</p> <p>【サッカー・テニス特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって以下のいずれかを免除する制度 (入学手続時納入金免除、入学費用のうち前期授業料免除、入学費用のうち入学金免除、入学費用のうち入学金の一部を免除)</p> <p>【スポーツ特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制・スポーツトレーナー科・スポーツトレーナー科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって入学費用のうち入学金または入学金の一部を免除する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>
<p>第三者による 学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価:有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 <a href="http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/">http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</a></p>
<p>当該学科の ホームページ URL</p>	<p><a href="https://www.neec.ac.jp/department/">https://www.neec.ac.jp/department/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
国土交通省が定める自動車整備士養成施設の基準に則り、幅広い高度な整備技術能力とビジネス感覚を身に付けた整備技術コンサルタントとしての人材を育成するため、4年間を通しインターンシップを含めた高度な実践的カリキュラムを企業の意見を積極的に取り入れながら計画的に実施、改善していく。また、環境保全や安全管理といった学習を通して、職場、地域に対しても先導的な役割を担うことのできる人材を育成することを基本として、適時編成委員会を開催し、授業内容や学生指導等についてや企業から求められる人材育成を目的として企業ヒヤリングを行い、授業内容の改善を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。また自動車メーカー・ディーラー研究会等やインターンシップ時などに企業訪問を行い、企業からの要望をヒヤリングし、実務教育に生かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
石井 秀和	東京都自動車整備振興会 八王子支部支部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	①
菅原 和茂	株式会社スズキ自販南東京 サービス部 部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
富山 慶太	トヨタS&D西東京株式会社 テクニカルサポートオフィス 技術力開発ユニット ユニットリーダー	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
清水 拓也	日本工学院八王子専門学校 科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 2021年9月09日(木) 13:30～16:30

第2回 2022年3月11日(金) 13:30～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

1.2年においては、編成委員の意見はもちろんのこと、自動車関連企業からのヒヤリングを活用し、現代の学生に自動車産業の重要性を伝えるために、各科目担当教員や職実教育連携非常勤講師などから新技術や業界知識の情報発信をし続け、将来自身が働く環境や取り扱う自動車について理解させ、国家資格合格へ向けた意識改革の一つとして取り組んだ。また、編成委員を含めた産学連携により、2022年度はコロナの状況を鑑みて企業特別実習(技術講習会)をできる限り行い、専任教員や学生に最新技術に触れる機会を定期的に確保している。

また、3年次就職に向けた活動として、2025年3月卒対象の「2022短期インターンシップ」など地域や産業界と連携し実施を計画。

4年次においては、各委員から提案されたプレゼンテーション能力やデジタルリテラシー基礎などの創造的問題解決能力に対して、サービスマネジメント科目などの中で取り組み、インターン実習科目終了後に企業や編成委員、一級自動車整備科在校生の学生に対して、インターン発表プレゼンテーション(2021年度はハイブリッド)を実施し、2022年度も同様に開催を計画。また卒業制作においても各自が課題発見・解決を導き、2021年度は「防災とクルマ」というテーマで制作し、ここでも産学連携を行い2021年度はハイブリッドで発表。

今後は整備士の在り方が大きく変わる事を予測し、将来活躍できる一級自動車整備士のスキルの構築(電気・IT・ものづくり)や人材確保について更に委員会等で検討を重ねていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

国土交通省が定める自動車整備士養成施設の基準に則り、企業が求める人材として身につけるべき知識・技術・ビジネスマナー・社会人基礎力等の課題のヒヤリングを行い、実習カリキュラムの検討を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

赤岡自動車修理工場の赤岡氏、ジョーアンドアソシエイツの内久根氏、ホンダ東京西の松岡氏、ダイハツ東京販売の小倉氏と1、2年各実習にて連携し、現在の整備作業の傾向に合わせ、自動車業界の知識、現場での実践力などの基礎自動車整備技術はもちろんのこと、社会人基礎力や人間力を企業目線において連携しながら指導を行い、産業界が求める人材育成として適切に評価を受けている。また、適時ヒヤリングを行い学科への詳細なフィードバックも行い、日々改善を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
自動車整備実習基礎	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備の基礎的な整備方法や各メーカーの最新技術について学びます	ダイハツ東京販売(株)
自動車総合整備実習	実習車両を使用して、各分野に関する整備技術を作業を通して実践的かつ総合的に学びます	ジョーアンドアソシエイツ(株)
シャシ整備実習1.2	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を作業を通して実践的に学びます	(株)ホンダ東京西
電装整備実習基礎1.2	自動車の電気装置に関する整備技術の基礎について作業を通して学びます	(株)赤岡自動車修理工場
自動車検査実習	実習車両を使用して検査方法に関する技術をより実践的に作業を通して学びます	(株)赤岡自動車修理工場

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

<個別で受講した場合には、後日学科内で社内研修として共有>

①専攻分野における実務に関する研修等 期間:2021年4月～2022年3月

研修名「自動車メーカー・販社における最新技術セミナー各種」

(連携企業等:各自動車メーカー・販売会社)

期間:2021年4月～2022年3月

対象:一級自動車整備科/自動車整備科 教員

・2021年7月16日(金)

東京都自動車整備振興会多摩支所(国立市)において、東京都自動車整備振興会における「整備主任者技術講習(実習)」受講

・2021年11月12日(金)

八王子市学園都市センター(八王子市)において、東京都自動車整備振興会における「整備主任者研修(法令)」受講

・2021年6月9日(水)

八王子キャンパス自動車整備実習場において、日産自動車(株)における「日産自動車技術講習会」受講

・2021年6月23日(水)

八王子キャンパス自動車整備実習場において、トヨタS&DHD(株)における「トヨタ自動車技術講習会」受講

・2021年7月7日(水)

八王子キャンパス自動車整備実習場において、(株)スズキ自販南東京における「スズキ自動車技術講習会」受講

・2021年10月12日(火)

八王子キャンパス自動車整備実習場において、日産自動車(株)における「日産EV・e-power技術講習会」受講

②指導力の修得・向上のための研修等 期間:2021年4月～2022年3月

研修名「学びを促すルーブリック(応用編)-ルーブリックの点検と改善-」

(大阪大学全学教育推進機構特任講師 浦田 悠氏)

期間:2022年2月24日(火)

対象:日本工学院専門学校/日本工学院八王子専門学校専任教員(一級自動車整備科/自動車整備科専任教員)

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等 期間:2021年4月～2022年3月

研修名「自動車メーカー・販社における最新技術セミナー各種」

(連携企業等:各自動車メーカー・販売会社)

期間:2022年4月～2023年3月

対象:一級自動車整備科/自動車整備科 教員

・2022年7月

東京都自動車整備振興会多摩支所において、令和3年度整備主任者研修

・2022年度中

八王子キャンパスにおいて、自動車メーカー、販売会社による「自動車技術セミナー」を複数回実施予定

・2022年8月9日(火)

いすゞものづくりサービストレーニングセンターにおいて「いすゞグループメカニズム学習会」開催予定

②指導力の修得・向上のための研修等 期間:2022年4月～2023年3月

研修名:「学生相談・メンタルケアとその支援」

(連携企業:調整中)

期間:2022年度中

対象:テクノロジーカレッジ専任教員(一級自動車整備科/自動車整備科専任教員)

多様化する学生とともに学生支援のニーズも多様化している。また、多様な支援を受ける学生も年々増える中で、支援自体を教育の一環として位置づけ、考える事が求められている。その中で多様化する学生達が学習をするうえで学校がどのような支援をする事が求められているのか、またどのように対応するべきであるかを知り、学校・カレッジ・学科・教員単独といった様々な階層での支援方法や現状を検討する事で、より良い学習環境を提供すると共により適切な指導力の向上を目的とする。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・コロナ禍の予測不能の事態や学生への対応が実に丁寧になされ成果を上げていることが理解できました。理事長を先頭に新たな取り組みも着実に進められていることに敬服します。
- ・SDGsに関連する学校としての取り組み。実質、関連項目や実施している事はあるかもしれないが、説明のなかで「SDGs」という言葉が出てこなかったのも、関連する内容には入れても良いと思います。
- ・各分野において情報は常に更新されているので、教職員の方々の知識・情報もアップデートが重要と考えます。月1回の研修の成果・効果を確認するような取組も検討してはいかがでしょうか。
- ・コロナ禍において情報の収集・管理については難しい点も多いと思いますが、校友会・卒業生就職先とのコミュニケーション強化に努めていただければと思います。
- ・既に検討されていることと思いますが、保護者会もオンラインで開催するなど遠方でも参加できるような取組をされてもいいかと思えます(環境によってオンラインが難しい場合などは個別に電話対応など。すでに実施されていたらご容赦下さい)。
- ・コロナ禍及びワクチン接種も個人の考えで必須に出来ない中、日本工学院八王子専門学校様の対応を含めた活動は非常に参考となり、勇気ももらえるものでもありました。政府が明確な線引きをしていない現状では、企業も学校も探りさぐりにはなっていますが、多角的な面で情報交換を行い、この状況を乗り切っていければと思います。
- ・丁寧なご説明有難うございました。コロナ禍において、教育目標に掲げる「スチューデントファースト」を実現することは容易ではないと思いますが、製作室や実習等の新設などの取組によって学生のモチベーションが上がることを期待します。また、私はテレビ技術会社の採用担当として、貴校からの応募者と毎年向き合っておりますが、近年、「どうしてもこの仕事に就きたい」という意気込みを持った学生さんが少なくなったように感じます。実際の現場で必要な技術は学校だけで習得できるものではありませんが、その魅力・楽しさをお伝えいただき、専門職に夢を持った「若きつくりびと」を多く輩出していただきたいと思います。
- ・教職員の研修も外部のオンライン研修などを活用してはいかがでしょうか。外部のコンテンツを利用することで学内コンテンツを増やすヒントになるのではないかと思います。
- ・コロナ禍において進路決定率が上がったことは素晴らしいことであったが退学率が上がっている学科が気になりました。
- ・株主総会もオンラインの時代ですので保護者会もオンラインで出来たのではないのでしょうか。
- ・工学院の名前に合ったネットワーク、ICT等の環境を整えて上げてください。
- ・時節柄、授業を実施する事や様々な学生支援に工夫をされている事が十分に理解する事が出来、いつものことですが、感心させられる事ばかりでした。今後は、学生への「心のケア」をして頂ければと思います。メンタルトレーニング的なものも取り入れても良いかと思えます。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. コロナ禍において、教育目標に掲げる「学生中心主義」を教職員一丸となり実行する。
2. 学生・保護者からの要望に応えられるよう、今後とも万全な体制を整える。
3. 質の良い授業(オンライン授業含め)を提供できるよう、教員のスキルアップのための研修等を充実させる。
4. withコロナの新しい時代における高専連携・地域貢献・地域連携を模索していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	卒業生/ IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社社田中建設 取締役 建築部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	医療 企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 令和4年9月30日

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和3年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程一級自動車整備科)令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ビジネススキル	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるためのトレーニングをします。	1・通	40	2		○		○		○		
2	○		自動車技術	自動車を構成しているエンジン・シャシ・電子電気装置の部品・構造・機構・動作原理について学びます。	1・後	80	5	○			○		○		
3	○		自動車基礎	自動車の仕組み・構造・構成部品についての基礎を学びます。	1・前	128	8	○			○		○		
4	○		自動車整備機器	自動車整備に使用する機器工具及びその使用方法について学びます。	1・前	32	2	○			○		○		
5	○		自動車整備基礎	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備の基礎を学びます。	1・後	56	3	○			○		○		
6	○		工作実習	金属加工を通して、その性質や加工方法を学びます。	1・前	32	1				○	○	○	○	
7	○		測定実習	自動車整備に必要な計測を、測定作業を通して学びます。	1・前	48	1				○	○	○	○	
8	○		エンジン整備実習基礎1	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンの整備技術の基本を、作業を通して学びます。	1・前	80	2				○	○	○	○	
9	○		エンジン整備実習基礎2	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンの整備技術を、作業を通して学びます。	1・後	80	2				○	○	○	○	
10	○		シャシ整備実習基礎1	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する基本技術を、作業を通して学びます。	1・前	80	2				○	○	○	○	
11	○		シャシ整備実習基礎2	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する技術を、作業を通して学びます。	1・後	80	2				○	○	○	○	
12	○		自動車整備実習基礎	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備の基礎的な整備方法を作業を通して学びます。	1・通	80	2				○	○	○	○	
13	○		電子制御実習基礎	自動車の電子制御技術の基礎を実習を通して学びます。	1・通	56	1				○	○	○		
14	○		電装整備実習基礎1	自動車の電気装置に関する電子電気技術の基礎について実習を通して学びます。	1・前	80	2				○	○	○	○	
15	○		電装整備実習基礎2	自動車の電気装置に関する整備技術の基本を、作業を通して学びます。	1・後	80	2				○	○	○	○	
16	○		国家2級合格講座	二級自動車整備士国家試験合格へ向けた講座です。	2・後	24	1		○		○		○		
17	○		自動車工学	自動車のエンジン・シャシ・電子電気装置などの動作原理と部品について詳しく学びます。	2・前	104	6	○			○		○		



授業科目等の概要

(工科技術専門課程一級自動車整備科)令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
18	○		自動車整備技術	エンジン・シャシ・電子電気装置の整備方法を学びます。	2・前	64	4	○			○		○		
19	○		自動車総合技術	最新の電子制御技術など自動車に搭載されている技術について総合的に学びます。	2・後	56	3	○			○		○		
20	○		自動車検査基礎	自動車の検査方法の基礎を学びます。	2・後	24	1	○			○		○		
21	○		自動車整備法規基礎	自動車整備に関する法規の基礎を学びます。	2・後	24	1	○			○		○		
22	○		エンジン整備実習1	実習車両を使用して、ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの整備技術を学びます。	2・前	80	2			○	○		○	○	
23	○		エンジン整備実習2	実習車両を使用して、ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの整備技術を、より実践的に学びます。	2・後	80	2			○	○		○	○	
24	○		自動車総合整備実習	実習車両を使用して、総合的な整備作業について学びます。	2・通	96	3			○	○		○	○	
25	○		シャシ整備実習1	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を学びます。	2・前	80	2			○	○		○	○	
26	○		シャシ整備実習2	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を、より実践的に学びます。	2・後	80	2			○	○		○	○	
27	○		電子制御実習	自動車のエンジン・シャシを制御する電子制御の原理を具体的に学びます。	2・通	32	1			○	○		○		
28	○		自動車総合整備	自動車の検査方法の基礎を学びます。	2・後	64	4	○			○		○		
29	○		自動車検査実習	実習車両を使用して、自動車検査作業について学びます。	2・前	56	1			○	○		○	○	
30	○		電装整備実習1	実習車両を使用して、自動車の電気装置に関する部品の特性を理解すること、その電子制御装置の整備技術を作業を通して学びます。	2・前	80	2			○	○		○	○	
31	○		電装整備実習2	実習車両を使用して、自動車の電気装置に関する整備技術を、より実践的に学びます。	2・後	80	2			○	○		○	○	
32	○		ビジネスマナー	就職活動に備え、将来の社会人として必要な知識・マナーを身につけます。	3・通	40	2		○		○		○		
33	○		電子制御技術	ガソリン・ジーゼルエンジン・シャシ分野の最新電子制御について学びます。	3・前	56	3	○			○		○		
34	○		高度整備技術	ガソリン・ジーゼルエンジン・シャシ分野の最新電子制御整備技術について学びます。	3・前	56	3	○			○		○		

授業科目等の概要

(工科技術専門課程一級自動車整備科)令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
35	○		高度総合診断整備技術	最新の故障診断器を使用した振動・騒音を含めた複雑な故障診断技術について学びます。	3・後	56	3	○			○		○		
36	○		自動車検査技術	道路運送車両法の保安基準・自動車検査の詳細を学びます。	3・後	16	1	○			○		○		
37	○		自動車新技術	ハイブリッド車・CNG車・筒内噴射式エンジン・CVT・ブレーキ・スリップ・姿勢制御等の制御技術について学びます。	3・後	32	2	○			○		○		
38	○		自動車整備法規	自動車整備に関する法規及び通達の詳細について学びます。	3・後	16	1	○			○		○		
39	○		環境保全・安全管理	資源の有効利用・産業廃棄物処理・汚染物質・工場騒音・工場振動に関する環境保全方法と災害防止・防火・防災・救急処置について学びます。	3・後	56	3	○			○		○		
40	○		整備機器取扱技術	整備支援機器・高精度計測機器・自動車検査機器取り扱い方法を深く学びます。	3・前	16	1	○			○		○		
41	○		応用エンジン整備実習	電子制御技術搭載の実車のエンジンの点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・前	160	5			○	○		○	○	
42	○		応用測定工作実習	エンジン出力・駆動力やセンサの特性等の測定作業、手作業・旋盤・フライス盤・溶接などによる金属加工作業を実習します。	3・前	24	0			○	○		○		
43	○		応用自動車検査実習	自動車検査員レベルの検査実習をします。	3・後	24	0			○	○		○		
44	○		応用シャシ整備実習	電子制御技術搭載の実車のシャシの点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・前	160	5			○	○		○	○	
45	○		応用総合整備実習	最新技術搭載の実車を総合故障診断して整備する実習を行ないます。	3・後	160	5			○	○		○		
46	○		応用電装整備実習	実車の電子制御装置の点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・後	160	5			○	○		○	○	
47	○		国家1級合格講座	一級自動車整備士国家試験合格へ向けた講座です。	4・後	24	1		○		○		○		
48	○		サービス・マネジメント	販売士・顧客管理・顧客対応技術・整備見積書作成技術について実習します。	4・前	160	5			○	○		○		
49	○		総合実務実習1	整備実務を通して顧客管理・顧客対応技術・整備見積書作成技術について実習します。	4・前	68	2			○	○		○		
50	○		総合実務実習2	高効率整備作業マニュアル作成・高難度故障原因探求作業・総合診断作業を実習します。	4・後	544	18			○	○		○	○	
51	○		インターン実習	自動車の点検整備・故障原因探求・総合診断の整備と接客実務を企業で体験します。	4・前	224	7			○		○		○	○
合計				51科目	4108単位時間( 146単位)										

授業科目等の概要

(工科技術専門課程一級自動車整備科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
卒業時に必修科目4108時間(146単位)を取得すること。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				20週			